

第 26 回 京都市西京まちづくり区民会議
摘 録

日 時 令和 2 年 1 月 24 日（金） 午後 2 時～午後 4 時
場 所 京都市西文化会館ウエスティ 1 階 創造活動室
出席者（敬称略）

- ・ 井上 学 立命館大学アート・リサーチセンター客員協力研究員
- ・ 上田 清和 西京区体育振興会連合会総務
- ・ 小倉 美和 京都信用金庫東桂支店支店長
- ・ 片山 千恵子 西京区社会福祉協議会理事
- ・ 小石 敦子 西京区民生児童委員会副会長
- ・ 小石 玖三主 西京区自治連合会会長
- ・ 鈴木 千鶴 区民公募
- ・ 宅間 保 西京保健協議会連合会副会長
- ・ 永谷 文隆 大原野地域自治連合会会長
- ・ 藤本 英子 京都市立芸術大学美術学部教授
- ・ 宮崎 秀夫 西京区長
- ・ 安田 淳司 西京区洛西担当区長
- ・ 山本 義博 桂学区自治連合会会長
- ・ 吉田 由美 区民公募

1 開会

樹下室長

本日は、次期西京区基本計画の骨子案について議論をいただきたい。今回の骨子案を基に次期基本計画の素案を作成し、次回の会議でお示しして議論していただく予定にしている。

石井係長

（本日の流れ、配布資料の説明、出席者確認）

樹下室長

河原委員，白須委員，東條委員，深川委員，安田桂子委員の 5 名については、都合により欠席する旨の御連絡をいただいている。

2 次期西京区基本計画の骨子案について

（1）第 25 回京都市西京まちづくり区民会議 意見の概要

和田課長

（資料 1 説明）

<意見なし>

（２）西京区基本計画にかかる実感度アンケート集計結果報告書

和田課長

（資料２説明）

上田委員

調査対象者 1560 人のうち回答数 886 人で、約 44%の方からご回答をいただけていない。各自治連合会や中学校 P T A の回答率を伺いたい。

石井係長

手元に正確な数字がないため感覚的な話になる。4 グループのうち各学区・地域の自治連合会会員の回答率が突出して高く、7 ～ 8 割ではないか。いずれにせよ、アンケート調査のため回答を強制することはできない。

小石議長

P T A や一般の方には分かりづらい部分があるのかもしれない。全ての活動を見える化しなければならないと感じている。

井上委員

満足度の差が出ている自由意見の公共交通について、アンケートの読み方として留意したい点は、バス等が使われていないにもかかわらず、イメージだけで「バスが不便」と回答されている可能性がある。例えば、西系統や洛西エリアのバスの本数について不満が出ているが、むしろ深夜帯の本数、停留所も増えている。おそらく車を使っている方から、そういうイメージの意見が多々あるのではないか。回答を分析し、間違った方向に行かないようにすべき。「バスを待っている間にベンチが欲しい」のようにバスを利用されている方の意見は、今後バス事業者にも伝えて一緒に検討が必要。

小石議長

1 時間に 2 本と言われるが、実際には上手に利用されている方もいる。洛西エリアもバス便はかなりあるが、系統が分かりづらい、動き具合の問題など、まだ検討する余地はあるように思う。バス停の座れるスペースは、確かに西京では少ないかもしれない。

（３）次期西京区基本計画の枠組み

和田課長

（資料３説明）

片山委員

西京区や洛西ニュータウンを知らない若い京都市職員がおり、西京の支所へ初めて赴任したとき、こんなところがあったのか、という声を聞いた。人口減少はどこでも同じだが、京都市が力を注いでつくった素晴らしい環境を研修等でも伝えていただき、西京区の空いたところに住んでもらえるようになればありがたい。

以前、芸大の跡地活用を西京区全体で考えて、小石会長から京都市長に提出した提案書は、今後どのようなかたちで活用されるのか。

樹下室長

西京区を知らない職員がいることを残念に思う。新規採用職員研修時に各区の状況について教えているはずだが、来て初めて実感することも多いのではないかな。なるべく多くの職員に伝わるよう意見を踏まえて発信をして、職員の西京区居住につながるようにしたい。

芸大跡地活用の提案書を提出後、西京区・洛西地域の新たな活性化ビジョンとして議論を重ねてきた。幅広く洛西地域をどうするか、そこに芸大跡地の活用が寄与するようにまとめている。

京都市としてまだ方向性が固まっておらず、現在は事業者を活用方法を提案してもらうサウンディング調査を実施中である。企業活動に関わるため内容は公にされておらず、それらの提案を踏まえて市としての方向を検討していくべき時期にある。

小石議長

西京区に働ける場所を増やさなくてはならない、それには民間だけでは駄目だと活性化ビジョンで打ち出した結果、市長が職住近接についてかなり言及するようになり、「職住近接がなければ、まちが駄目になる」と発言している。活性化ビジョンを取りまとめていくのは大変だったが、いいかたちが生まれたと感じている。

洛西ニュータウンと大原野の間に「谷」があると感じている。桂坂や大枝についても同様。ニュータウンと周辺は、もっと本所エリアと一体感を持って進めていかねばならない。基本計画の取組期間は2025年までだが、西京区も少子高齢化を大きな課題として取り組まねば、2025年問題を乗り越えられない。大原野も一緒になって課題解決を検討していく必要があるだろう。

宮崎委員

洛西地域は多様な住環境があり空き家の発生率も少ないが、敷地面積の大きな家をお持ちの方が多く、若い世代が購入して住めるかどうかという点で難しい。洛西ニュータウンは、建築協定や地区計画で良好な住環境を守ってきたことで現在のかたちがあるが、人が住まなければまちにはならず、若い世代に何とか住んでもらえないかという思いで、基本計画に「住み続けられる住環境の整備」という新たな項目をつくっている。

永谷委員

洛西ニュータウンと大原野の間に「谷」があるとのことだが、洛西ニュータウンは整備された地域である一方、大原野は以前からの農業的地域で、二重、三重の規制の網がかかっており、地域が部分的に動いている現状がある。少子高齢化は全国的な流れであり、地域活性化のためには地域開発が必要だが、大原野地域は大きな開発を望んでいるわけではない。地域に合った規制緩和を基本計画に組み入れて活性化を進めてほしい。

現在、大原野地域は地区計画に取り組んでいるが、許可をもらうためのハードルが高く、「都市計画法 34 条第 11 号」による宅地の規制緩和の要望書を京都市長宛てに提出しているほか、条例の制定などにも取り組む必要性を感じている。

地下鉄の延伸など、交通整備についても選挙のマニフェストとしてうたわれている。「地下」にこだわらず、モノレール等も含めた交通整備について、長岡京から進める方法等も合わせて、ぜひとも西京区の基本計画にも取り入れてほしい。

生産緑地を守るというかたちで、洛西タカシマヤの西に大きな竹林が残っている。「緑地法」等の法律があり、地域の管理組合も管理をしているが、現状はかなり荒れている。一部でも地域の安らげる場所として公園化することなども検討してほしい。

以上のような意見は、アンケートの自由意見でも同じような意見が出ていたので、ぜひ基本計画に入れてもらいたい。

藤本副議長

計画骨子（案）の四つのキャッチフレーズは、まだ見直すとのことだったが、現行計画の言葉や 40 周年の言葉そのままなのか。

石井係長

四つのキャッチフレーズは、既存のものから特に変更しておらず、これらを参考に組み合わせや修正を検討していきたい。

藤本副議長

これからのまちづくりは、ポイントを絞って訴えることが重要になる。まちづくりというと、どうしても賑わいや活性化など開発をイメージする方が多いが、西京区は緑の保全と農業活性化にポイントを置き、まず住みたいと思えるキャッチフレーズにしたい。

小石議長

自治会加入率が伸びない。賃貸住宅に居住の方が多く、2～3年で転勤するので加入をしていられないと言われると、そこを抑えていくだけの言葉がついてこない現状がある。

（４）次期西京区基本計画骨子（案）取組分野の方向性

和田課長

（資料４－柱１説明）

宅間委員

先日、地域の母親から子育てに関する問題提起があった。子育てサロンの場所を知らない方がいらっしやり、発信が足りないのかもしれないと感じた。また、出産・子育てに関する心配事は、保健福祉センターに行けば対応してもらえるが、相談する場が近くにないとのことである。子育てサロンにも助産師や保健師に来てもらうことはできないか。早急な対応は難しいだろうが、何年かの間で取り組んでいただきたい。

井上委員

子育ての場はお母さんの場と考えられており、父親が一人で子どもを連れていっても受け入れられにくい。今後、男性の育児参加も当たり前になってくるので、父親が積極的に参加しやすい雰囲気づくりも配慮してもらいたい。

小石議長

子どもを育てられる環境づくりがなければ、子どもが増えることも難しくなる。

小倉委員

金融機関でさまざまなお客さまと長くお付き合いする中、ある日、突然に認知症が始まったのではと感じる方が年に何人かあり、対応が難しいと感じている。京都信用金庫では、認知症サポーター制度による研修を全職員が受け、行政などと連携するように指導をもらっているが、一人暮らしの認知症と思われる方に対しては、どこの誰に頼ればいいのか分からない。サポーターには連絡をするが、家族から伝えていただかなければならない部分もある。

金融機関は、高齢者に会うことが多く、早期で接する機会も多い職種である。行政や施設と連携して、例えば1箇月に1回でも巡回に来てもらい、そういう人の様子を話し合えるようなことがあれば、さまざまな部分で前進するのではないか。行政には、金融機関の使い方も考えてもらえるとありがたい。

小石（敦）委員

通帳を紛失したと言って、高齢者が金融機関に何度も行っておられることがあるが、住んでいる場所の地域包括支援センターにつないでいただければ、そこから担当の民生委員につないで見守ってもらうケースもあるので、ぜひお願いしたい。

父親が参加しやすい子育ての場もあるにはあるが、皆さん御存じではないようだ。父親の育児参加が盛んになる中、もっと情報発信しなければならないと反省している。

吉田委員

桂徳学区で会社経営しており、自分自身も桂徳小学校に通う子どもがいるが、社員に育児休暇・産休を取っている者も多い。保健センターには子育て世代の支援をしていただいているが、他の地域から来ている者には情報がない。勤務時間内にセンターへは行きづらく、何らかのフォローが欲しいと感じている。

インターネットなどもあるが、情報を取ることが意外と難しい。企業などに対して西京の福祉に対する取り組みなどを伝えていただければ、職住近接にも効果的ではないか。

小石（敦）委員

企業は自治会に入っていないため、回覧板やお便りが届かないという落とし穴がある。

吉田委員

私自身は桂に住んでいるので届くが、会社としてはない。

小石議長

法人も地域の一員であり自治会に入ることにはできるので、ぜひとも入ってほしい。私の地域の自治会は、88世帯のうち約60世帯が法人。運動会でも法人の若い人が出てくれるようにもなっており、行事の中で顔つなぎをしてもらうこともありがたい。

和田課長

（資料4－柱2説明）

小石議長

本会議もプラごみ対策で、これまでペットボトルだった水が缶になっている。ちょっとしたことだが、こういうことから始めていかななくてはならないだろう。

休耕田を生かしたイベントは、難しいところもある。

脱炭素を表示していただいたので、それに対する取り組みも必要。

藤本副議長

（5）の「美しい景観の保全・創出（景観）」について、6割の市民が美しい西京区と言っており、私の専門でもあるので、「地区特性に応じた景観づくり活動」について、内容をもう少し伺いたい。

石井係長

緑を守る景観づくりも続けていかななくてはならないが、その結果、住みにくい西京区になってもいけない。評価されている緑を守りつつ、より住みやすいまちなみの創出と両立できる案を考えたい。

藤本副議長

先ほど竹やぶの話もあったが、緑があれば美しいわけではなく、美しい緑がなければいけない。緑の景観、まちなみ景観、さまざまな地区特性に応じて進めてもらいたい。

小石議長

放置竹林に対して、もっと竹を減らしてタケノコやぶにすればよいと言う方もいるが、あまり開きすぎると無植生になってしまい、その辺は間違っではいけない。

歩くまちという意味では、緑が美しく、歩いて気持ちのよいかたちが理想で、それをどうすれば維持できるか考えなくてはならないが、難しいテーマではある。

大原野ICから降りると、京都市全体と緑が見えて本当に美しく、西京でよかったと感じることができる。

安田（淳）委員

洛西地域は放置竹林が問題になっている。これまで農家の方が管理していたが、高齢化で維持できない時代を迎えている。行政の介入にも限界があり、他地域の方と助け合うような仕組みがなければ景観は維持できず、これからの課題だと思っている。

小石議長

台風 19 号の影響で竹林がかなり荒れている。ばねになって跳ねたりするので、素人が切ろうとすれば、けがをする危険もある。風倒木は怖い存在で、対処が難しいのが現状。

和田課長

（資料 4－柱 3 説明）

小石議長

以前はなかったことだが、最近は西京区の各病院が様々な企画で講座を開催している。シミズ病院、桂病院、三菱京都病院など大きい病院が、ウエスティなどを利用して地域とつながりをつくっていただけているのはありがたい。

上田委員

西京区は市民スポーツに熱心な地域だが、アンケートにもあるように、体育館・グラウンド等の施設が少ないことに苦慮している。現在、大原野にある光華女子学園と京都女子大学のグラウンドを使って区の体育祭をしているのが現状。桂川地域体育館は右京区との抽選で使っており、施設があっても使いきれない。西京区専用の施設を確保してもらい、区民が優先的に使うことができれば、市民スポーツもより発展するのではないかな。時間がかかるかもしれないが、ぜひ計画してほしい。

藤本副議長

京都市立芸術大学は移転をするが、せっかく長い縁があるので継続して連携したい。学生には、京都駅周辺から通うより、バスも京都駅まで 1 本でつながっているので、ぜひ西京区に住んでほしいと思っている。

小石議長

この間、亀岡市で「かめおか霧の芸術祭」があったときの話だが、京都市内で活動しにくくなったので、移転して活動しているとのことだったが、西京でもっと活動してほしいと感じた。亀岡市は、芸術をやる方の活動が増えてきていると聞く。

ウエスティにも活性化委員会があり、私もメンバーだが、ウエスティと合体した総合庁舎整備を進めることができれば、単独では難しい賑わいの創出もできる。そこで文化が活性化できれば、もっとよいかたちのものができることを期待している。

和田課長

（資料 4－柱 4 説明）

(事務局) (文化市民局 地域自治推進室)

(資料 5 説明)

井上委員

(2)「新たな交通ネットワークの検討」は、これまでの地下鉄延伸の視点から大きく変わるので、重点的に取り組んでいただきたい。山科では、地下鉄が延伸されてもバスとの乗り換えで不満が出ている。そもそも公共交通に乗り慣れないところに地下鉄を持っても誰も乗らない。地下鉄が来なかったことを逆手に取って、時代に合ったよりよいものをつくることで、京都で最先端の公共交通になることを期待している。

モノレールやLR Tなどは、地下鉄より事業規模は小さいが実現までに時間がかかる。まず道路上にバス専用レーン(BRT)を確保すれば、電車並みの時間で走ることができる。例えば洛西とJR、阪急の駅を結ぶところから始めて区民に見せた上で、ゆくゆくはモノレールやLR Tにするといった、段階を踏んだイメージづくりをしてはどうか。

大阪の今里地区や新潟は、地下鉄の代わりにBRTを導入したが低調と聞く。その原因は、バス専用レーンがないにもかかわらずBRTと言ってしまったことにある。西京ではバス専用レーンを確保することで、他のまちとまったく違うものだと言うことができる。

そのためにも公共交通の利用に動機づけをしてほしい。歩くまち京都に関わるかもしれないが、福西学区のモビリティマネジメントで実際に皆さんの満足度が上がっている。モビリティマネジメントは世代によって柔軟に対応することが重要で、例えば子育て中の方ならベビーカーの乗り方講座をするだけで心理的にも変わっていく。

高齢者にも公共交通の利用を促したい。運賃が高いとの不満があるが、車は維持だけでも1日1,100円かかる。また、運転すると1日2,000円かかる。一方、家庭で定期券を買えば土日の外出100円でバスに乗ることができる。実際に私は車なしの生活をやっている。区全体で公共交通のよさを感じてもらえば、車が減って自転車の走行環境もよくなるだろう。

交通の課題に一丸となった取り組みに向けて、区民の役割も入れてもらいたい。例えば、骨子5章の「実現に向けて」に、汗をかく区民との協働によるまちづくりの推進などを入れてもらいたい。これから国の予算は汗をかく地域に落ちてくるので、汗をかく福西学区のような取り組みを区全体に進めていきたい。

藤本副議長

井上委員の意見に賛成する。今の世の中は新しい技術で動いており、モビリティもどんどん変化するタイミングで考えるのはとてもよいことである。幸い、自転車道のような空間もきちんとある。洛西ニュータウンの中をBRTが走る絵が浮かんできた。

栃木県宇都宮市では、信用乗車方式を採用した国内初のLR Tを導入したということも聞いている。まず区民が公共交通に乗り慣れることが重要だが、他地域の事例も踏まえて、動機づけになるデータや見本を出しながら公共交通を整えてもらいたい。

鈴木委員

自転車交通の推進もあるが、いまはシニアカーが注目を浴びている。日本では年寄りの乗り物とされるが、海外では様々な人がショッピングセンター内でも乗っている。障害のある人もない人も共生する社会を目指すという点で、おしゃれな電動車いすも出ている。

私は自動車屋をしているが、3月から西京警察の動画に「免許を返してシニアカーに乗ろう」という広告が出る予定。専用レーンを設けて、どこからでもおしゃれにシニアカーに乗ることができる、未来型の交通が西京にできればと思う。シニアカーは、歩道のアップダウンがあると乗りにくいが、バリアフリーの平たんなまちであれば快適だ。スーパーの買い物にも使える社会になればいいと考えている。

上田委員

総合庁舎整備のイメージ図によると、有効なスペースのほとんどが第2期工事で、第1期工事の半分程度は共用部分の工事になる。令和5年に完成する第1期工事の時点で、第2期工事を含めた全体の基本設計は完了するのか、それとも時代ニーズに応じた変更があるのかを伺いたい。

(事務局) (文化市民局 地域自治推進室)

第1期はしっかりと保健福祉センター別館を持ってきて、第2期は時代に合わせたよりよいものをつくりたいと考えている。第2期工事は令和20年までであるため、具体的な内容はもう少し先に検討する予定である。

小石議長

現在の区役所の使っている部分は存続するので同じ機能を持つだろうが、せっかく第1期工事で作ったものに魂が入らないのでは困る。人が来やすい区役所にならないのであれば意味がなく、建物だけつくっても使い物にならないのでは、第2期工事は中止せよとの声が出ないかと心配している。新しい交通システムも区役所に寄りやすいように整備し、第1期工事で皆さんの夢を実現できるようにしてもらいたい。

正直、シニアカーは怖い面もある。シニアカーの速度は何キロくらいなのか。

鈴木委員

人が歩く速度くらい。

小石議長

その速度で道路の真ん中を走って、後ろの車が大渋滞を起こしていることがある。危険な状態だと感じる。

鈴木委員

車から乗り換えられるので、真ん中を走られる。バイクや自転車にも乗ったことのない方が、いきなりシニアカーに乗ることが最も危ないと感じている。歩行者の足を平気で踏んで走行する方もおられるため、シニアカー講習会のようなものが必要だろう。

小石議長

自転車と同じ感覚で原付に乗り、いけないと分かっているはずなのに歩道を走っている方がいて怖い。道を全て整備し直さなくては難しいかもしれない。

洛西ニュータウンは緑道があつて素晴らしいが、本所周辺や大原野は昔のままの道だ。地域によって違いがあるので、総合的に考えなくてはうまくいかない。

片山委員

洛西ニュータウン内でもシニアカーの利用が多く、障害の程度によってさまざまなレンタル制度もある。社会福祉協議会で高齢者のための講座をすると、駐車場に並ぶのは、これまでは自転車だったがシニアカーになっている。ベビーカーは畳むことができるが、シニアカー専用の駐車スペースを設けるなどの配慮が必要だろう。

小石議長

よくなればよくなったで違う問題が出てくる。そういった面も考えなくてはならない。

上田委員

空き家の民泊について記述があるが、西京区の民泊の届出数を把握されていれば伺いたい。

宮崎委員

届出制により把握されている民泊の件数は、京都市のホームページ上で行政区別に逐次発表している。具体的な数字については、確認してあらためて回答させていただく。

安田（淳）委員

京都市内よりは少ないかと思う。

小石議長

安いホテルや部屋が増えたことによって、民泊ではなく宿泊施設に泊まるパターンが増えており、今は民泊も厳しい時代になってきているのではないか。一時は西京区でも、こんなところに誰が泊まるのかという場所もあったが、最近は見なくなったように思う。

井上委員

市バスの車体や車内にたけにょんのキャラクターがあしらわれている、たけにょんバスは素晴らしい取り組み。区のキャラクターマークをバスに使用したのは、市内で初となる。今月中で終了予定だったが、好評により運行を続けるとのことだ。

石井係長

車内の絵は外していくが、ヘッドマークや車体側面のたけにょんの看板は継続している。

井上委員

区民が「よかったね」と言って延長が実現したことは、西京区のコミュニティのよさだろう。西京区だけでやっているということを発信することで、西京区を好きになってもらえるのではないか。

小石議長

たけにょんは子どもたちに人気があり、親しみを持ってもらっている。当時、企画に関わった者としてもうれしく思う。

山本委員

西京区ができて四十数年たつが、9号線、洛西ニュータウン、京都市立芸術大学もできて、発展の時期だった。今後の5年は芸大跡地と新しい区役所ができるということで、西京区の勝負時だと思っている。

アンケートの意見を見ても分かるが、われわれが聞いても分からない部分がある。行政も、それぞれの部分で専門家や関係機関を交えて議論し、一つ一つを咀嚼しながら物事を進めなければ、漠然とした将来像になってしまう。

バスに乗っていないにもかかわらず、アンケート内で様々な発言をしている方が見受けられ、他の意見も理想論に近いものが多い。理想の実現に向かって進むのも西京区のやり方だが、現実性のある意見を吸い上げることも重要。各学区の意見は連合会でも聞いてもらいたい。「桂巽児童公園にトイレがない」との意見もあるが、学区ではトイレをつくらないと発信している。

新庁舎の交流スペースは、すなわち情報発信の場でもある。民生委員の活動は区民新聞等で発信しているが、なかなか目にされていないのが現実。交流スペースに相談部署を設置し、分からないことを気軽に聞くことができれば、もっと区民が親しみやすくなる。

西京区は緑が豊かで、新たに発展させる部分は芸大跡地。区全体を考えた場合、現在の西京をどう維持するかという発想も持つべきだろう。いま現在、すでに多くの方に住んでもらっている。快適かつ安心して住める環境づくりを大事にして、専門家の意見も聞きながら課題を解決してもらいたい。

西京区民が梅田駅で発信しておられるが、見てもらわなければ何にもならない。住んでいる人が親戚などに伝え、自らが快適に住んでいることを発信すれば、おのずと広がるだろう。また、自ら発言するよりも、向こうから聞いてもらう、見てもらうスタンスがよいと感じる。

小石議長

前の基本計画は10年、今回の基本計画は5年だが、それだけ世の中の動きが速くなっているということではないか。5年でできることをやるには、夢物語ではなく実効性のある言葉が基本計画の中にも必要。

福祉や安心・安全について、いつも区長からもお褒めいただくが、それを今後もうどうしたら維持できるかも重要な観点。

樹下室長

先ほど御質問のあった民泊の届出件数について、11月30日現在で西京区は5件であり、他区より桁違いに少ない。

小石議長

他の意見がなければ、本日予定していた議題は以上となるので、進行を事務局へお返しする。

3 その他

樹下室長

長時間にわたる熱心な御協議に感謝申し上げます。本日の意見を元に次期基本計画の素案を作成し、次の会議で提示させていただきたい。

資料7「西京☆わくわくはぐくみアクションについて」と資料8「西京区地域力サポート事業について」の2件は、いずれも事業の実績報告であり、時間があるときに目を通していただきたい。

4 閉会

藤本副議長

全員から発言があり有意義な時間だった。順調に行けば2023年、新庁舎の第1期工事が完了するころに芸大も移転する予定だが、まだ先行きが分からない状況にある。

通常の大学にも卒業制作等はあるが、本学は大学院生も含めた全員が作品を出す展覧会を開催する。ここ数年、京都市立美術館が改装中であつたため本学を中心に開催していたが、京都市立美術館のリニューアルオープンに合わせて戻る予定になっており、本学内の開催は最後になる。私の専攻である環境デザインは移転先である元崇仁小学校にギャラリーが開設されるが、ほぼ全ての作品は大学内で展示がある。2月8日から2月11日の短い期間だが、ぜひお越しいただき、励ましていただければありがたい。宣伝になって失礼したが、次期計画の最終案を楽しみにしている。

樹下室長

以上で第26回京都市西京まちづくり区民会議を閉会する。

(終了)